

とよおか



# 農香だより

No.38  
2017.

# 12



市長に意見書を提出...2P

行政視察報告...4P

シリーズ「きばっとんなる人らあ」...5P

# 豊岡市長に意見書を提出しました



## 1 遊休農地の発生防止及び解消の最適化に関する連携支援について

- (1) 遊休農地の発生防止及び解消のための農地の利用調整については、地元の農会・区・営農組織及び担い手等の協力を得ているところであるが、市においても、必要に応じ、国、県、市及び農地中間管理機構の補助制度活用等連携支援を図りたい。
- (2) 解消に向けての具体的な支援について
- ① 農道の拡幅、水路等の基盤整備を行えば耕作が継続できる場合においては、その整備について、国、県の補助制度を活用するとともに、市制度の拡充を図りたい。
- ② 鳥獣害に強い農作物の導入及

## 2 担い手農家や集落営農の育成と支援

- (1) 新規就農者に対する支援について
- 新規就農者に対し、国、県及び市の支援制度の積極的活用と継続を図るとともに、農業スクール卒業生に対し、豊岡農業改良普及センター、J A たじま、受け入れ農業者等と連携し、自立に向けた支援を強化されたい。
- (2) 集落営農の育成と支援について
- 地域の農業の担い手として、集落営農組織は有効である。組織化できていない集落に対する設立や組織運営の指導及び資金等の支援を強化されたい。
- (3) 地域を支える農政
- ① 人・農地プランの取組みについて

が伝統的農作物の特産化による農地の有効利用を促進されたい。

③ 農地の持つ空気清浄機能、景観等の公益性を生かし都市との交流による優良農地の保全に努められたい。

④ 耕畜連携による耕作放棄地の解消に向けた仕組みづくりに努力されたい。

## 3 地域を支える農政

- (1) 人・農地プランは、市内全域で推進され一定の進捗が見られるが、伸び悩みの傾向もみられる。今後は一律の指導ではなく、地域の実情に合ったきめ細かい指導を推進されたい。また、農地利用最適化推進委員が積極的に関わることにより、今後の農地利用調整に役立つと考えられるため、推進にあたっては、情報提供を行い、農地利用最適化推進委員との連携を図られたい。
- (2) 土地改良区への支援について
- 構成員の高齢化、不在地主の増加、施設の老朽化に伴う費用負担の増加等多くの問題を抱えている。土地改良区単位等の広域的な「多面的機能支払交付金」の組織づくりを進めるとともに、その事務に対する支援を強化されたい。
- (3) 米政策について
- 平成30年度から国の米に対する支援が大きく減少すると聞いている。しかし、米は豊岡市における基幹作物である。米支援に対する激減緩和措置を国、県等に要望するとともに、市としても独自の支援措置を検討されたい。

## 4 有害鳥獣の被害防止対策の強化

- (1) 被害防止対策について
- ① 被害は今なお増加傾向にある。捕獲体制のさらなる強化と継続を図られたい。
- ② 狩猟者の増加施策の検討、狩猟免許取得や免許更新の支援の充実を図られたい。
- ③ 侵入防止柵、捕獲檻等の設置及び管理に対する支援の充実を図られたい。
- (2) 中型獣対策について
- 狩猟者の意欲高揚のため、アナグマ、ヌートリア、アライグマ、ハクビシン等、中型獣の捕獲償金を増額されたい。

## 5 地産地消と食農教育・環境にやさしい農業の推進

- (1) 環境にやさしい農業の推進について
- ① 「コウノトリの舞」など環境に優しい農業も年々拡大しているが、水稲の収量をみると慣行栽培より少ないのが現状である。栽培方法を見直すとともに、販売単価の向上に向けJ A との連携をさらに強化されたい。豊岡市における米の無農薬栽培面積は日本一と言ってもよい。日本一無農薬栽培米面積の多い町を標榜し、米政策の柱として推進されたい。
- ② コウノトリ米の無農薬栽培でポット苗の普及をされているが、農家が箱苗栽培の機械類を切り替えるにはハードルが高い。スムーズに切り替えられる体制を検討されたい。
- (2) 食農教育の推進について
- ① 各地域、地区内において、旬の食べ物に触れる機会を提供し、その地域、場所にしかない伝統食を学ぶ機会をさらに広げられたい。
- ② 現在、小学校で実施されている「環境体験事業」について、幼児教育・保育現場にも拡充されたい。
- (3) 地産地消の推進について
- ① 安心、安全な地場農産物をもども園等の給食、間食にも供給できる体制を確立されたい。
- ② 平成28年度に豊岡市農業委員会で豊岡市の伝統・特産農産物マップを作製した。今後はさらなる発掘、育成、ブランド化を図るとともに、消費拡大のため、道の駅等販売施設の新設を早急に進められたい。

10月31日、森井会長をはじめ代表委員5名で市長室を訪れ、平成30年度の予算編成に向けて、豊岡市長に意見書を提出しましたので、その内容を掲載します

## 農地パトロールを実施しました

7月19日～8月3日にかけて豊岡市内全域を10ブロック（豊岡北、豊岡南A、豊岡南B、城崎・港、竹野、日高東、日高西、出石北、出石南、但東）に分けた班で今年も農地パトロールを行いました。

パトロールには農業委員19名と農地利用最適化推進委員25名が参加し、昨年調査した遊休農地等の追跡調査や新たに発生した遊休農地の確認などを行いました。



出石北地区でパトロール中



但東地区でパトロール中

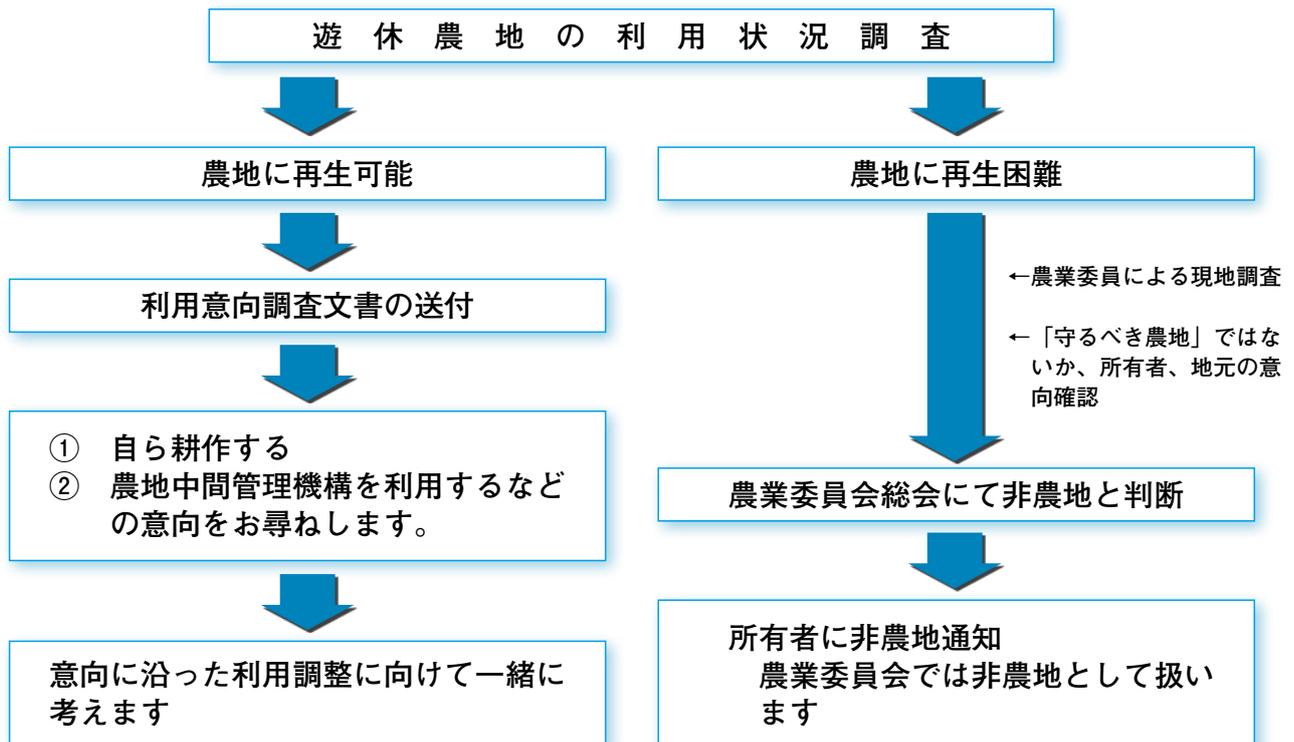
### 遊休農地とは？（農地法第32条）

- ・現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地。
- ・その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し著しく劣っていると認められる農地

農業委員会は、毎年1回以上、市内にある農地の利用の状況についての調査を行うことが義務付けられています。

調査により、耕作されずに遊休農地となっていることが確認された場合は、今後の対応・意向を聞き取り、解消に向けた指導を行うことになっています。（利用意向調査）

## 遊休農地解消に向けた流れ



平成29年度農業委員会  
行政視察報告(11月8日～9日)

農業委員会では、平成28年5月にいち早く新体制に移行した「岐阜県瑞穂市農業委員会」、平成28年度地産地消優良活動の交流促進部門で農林水産大臣賞を受賞した「ファーマーズ・マーケットおうみんち」を訪れ、事例報告や施策について研修しました。

岐阜県瑞穂市農業委員会

山がない。日頃見慣れた山が360度見当たりません。平野一面、黄金色に実ったイネは刈り取りの真最中。聞けば日本で一番遅く田植えが行われる地域ようです。豊岡とのギャップを感じます。



瑞穂市農業委員会会長から説明を受ける

瑞穂市は岐阜県南西部、岐阜市と大垣市の中間に位置し、平坦な地形と豊富な水を利用した水稲栽培を中心に、果樹、花きの栽培が盛んな田園地帯。なかでも富有柿は瑞穂市が発

祥地で、県内はもとより愛知県や関東・関西地方にも出荷され、近年はジャムに加工して販売するとともに学校給食にも利用される。

瑞穂市役所では、全国的にも数少ない女性農業委員会会長である高田里美氏が笑顔で出迎えてくださいました。瑞穂市農業委員会は法改正後いち早く新体制に移行し、農業委員14名(うち女性農業委員4名)、推進委員10名で構成され、農業委員と推進委員が連携しつづも、役割分担を明確にするなどで実効性の高い活動を実施されています。従来

の許認可活動に加え、農地パトロールの実施やヨシの駆除、シルバー人材センターを紹介して草刈りをするなどの遊休農地の防止・解消活動。カラス・カワウ・ヌートリア・ジャソニシ等の有害鳥獣駆除活動。ただ、山地がないことか

らシカ・イノシシ等の大型獣はいないとのこと、うらやましいかぎりです。また、市社会福祉協議会が実施する学習支援事業に、農業委員会が協力して子供食堂を実施するなど、農福連携にも取り組まれています。子供食堂では子供たちの夏休みの宿題など学習支援の後の昼食の時間に、女性委員が生産された柿ジャムやピーマンなどを使って、子供たちと一緒にデザートやたこ焼き作りをされ食育にも積極的に取り組んでおられます。等々、参考になる事例を紹介いただき、たわわに実ったイネのように実のある視察研修になったことに感謝。

研修終了後、試食したジャムは大変おいしく、土産にいただいた富有柿は色も形も見事なものでした。

追記 宿泊したホテルの売店で「県産品愛用推進宣言の店」という立て看板を見かけました。市民一丸となって地産地消に取り組まれる姿勢に感慨深い思いがしました。

(齋藤善久委員)

ファーマーズ・マーケット  
おうみんち

ファーマーズ・マーケット

「おうみんち」は、滋賀県守山市洲本町、琵琶湖大橋東詰から5kmほど東に入ったところに位置する。周辺には、主要な道路もなく、広い畑の中に建っている。この、ファーマーズ・マーケット「おうみんち」は、平成28年度地産地消優良活動の交流促進部門で農林水産大臣賞を受賞した。コメ中心の農業からハウス野菜・ハウス園芸にと農業の多様化に地元のJAが力を入れている。特に守山メロンは有名で、イチゴ・ナシ・ぶどう・柿・なばな(菜の花)等が、農業の中心になりつつある。

「おうみんち」の経営主体であるJA「おうみ富士」の担当者は、売上10億、愛されて50万人を目標に取り組んで来られ、設立から10年経過した今、売上11億円、利用者44万人になったという。利用者内訳は、地区内4割・地区外利用者6割で、近年は県外からの利用者が増加している

と聞く。直売所の他に、お母さんたちが、地元の食材で作った手料理がバイキング形式で味わえるレストランが併設されている。「安全・安心・新鮮な野菜をおうみんちから食卓へ」を、合言葉に日々取り組んで来た成果が、農林水



産大臣賞に繋がったのだろう。ここでは、消費者交流の環境として、青空フィットネスクラブ・畑の直売所・学校給食への食材提供などを行うとともに、若いママさんに、安全、安心、美味しいものを食べてもらうための取り組みに力を入れていると担当者が力強く話されていた。

現在550名の生産者が登録しているが、高齢化に伴い生産農家が減少しているとのこと。

ファーマーズ・マーケット「おうみんち」は地域農業を守る取り組みとして、新規就農者に施設利用やICT技術を取り入れた農業指導を積極的に進めている。

「採れたての農産物をその日の食卓へ…」まさしくこのことが農業の基本であると感じた。

(田中直喜委員)



自慢のぶどうと

## 新規就農3年目

出石町上村 中嶋 敏博さん (37歳)

兵庫県の担い手育成総合支援事業で農業研修を受講した際に果樹栽培を志した中嶋さんは、豊岡のぶどう農家でさらに一年間研修を受け、そこで技術を学び一昨年に地元出石で新規就農され、ぶどうを中心に野菜と菌床椎茸を栽培しておられます。

一番のこだわりは無農薬栽培。「高品質で美味しいものを作りたい。しかも安全なものを」という確固とした信念のもと、有機物での土づくりに重点を置き、土を良くして木を育てるという方針で、ぶどうも野菜も無農薬で栽培されています。

ぶどう栽培では、ブラックビートやシャインマスカットなど最近の優良品種を選び、定植から露地では3年目、ハウスでは2年目を迎えた今年、初めて収穫できたそうです。再来年には本格的に収穫できるとのこと。

大粒の美味しいぶどうを目指し、今後も農薬や化学肥料に頼らないという考えで、土づくりと木の管理を続けていくそうです。

また、ぶどう棚を自前で設計し、自作されたということですが、その作業には農業を行っている仲間がたくさん集まって助けてもらい、大変ありがたかったとおっしゃっておられました。

「農業は楽しくやりがいがある。自身がこだわりをもって良い物を作り、それを喜んで食べていただける人に届けることができる素晴らしい職業。」と話される中嶋さん。

豊岡で有効利用されていない農地が多いことを憂慮されており、「高齢化が進む今、もっと若手の農業者が増え、地域の農業が盛り上がって欲しい。」と、同じ志を持った農業者が増えることを期待されていました。(蜂須賀久人委員)

## 家族で取り組む魅力ある農業経営

出石町嶋 瀬尾 雅仁さん (34歳)

「神戸で育ち、家電販売店に勤めていて、まさに夢にも思わなかった農業です。」と瀬尾さん。24歳の時、結婚を機に婿養子として出石の専業農家を継ぐことになり、一生ここで暮らすのなら「ここでしか出来ない農法で！」と父のやっていた農業を教えてもらい、「自然を守り安全安心なコウノトリ育む農法」に魅力を感じて実践しているそうです。

現在、14haの田と、延べ26aのビニールハウス(小松菜・水菜・ほうれん草他)の営農を行い、各自が決められた仕事を分担、責任をもって管理するなどの家族経営で取り組まれています。

こだわりは、お米を販売する時、ただ品種・産地をうたうだけではなく、そのお米を「誰がどんな気持ちで作っているのか、どんな物語が込められているのか」ということを少しでも知ってもらうように心がけているとのこと。

また、「自分のふるさとである神戸など、都会の人にも“美味しい”と言ってもらえるお米を食べてもらいたい。そんな気持ちを込めてトラクターを運転し、米作りに励む日々です。」とも。

お米を棚に陳列し販売をしている最中には、お客さんとの会話を楽しみつつも、しっかりと自分の気持ちを伝え買ってもらおう努力を行い、今では地元スーパーをはじめ、神戸近郊の直売所にも販売ルートを広げての経営です。

若い二人が両親の教えを真摯に受け止めながら、さらに新たに積み上げた農法での農業経営。24歳で全く知り合いのない出石に来られて以降、積極的に農業クラブやJAの青年部組織に所属し、仲間を増やしてきばっとられます。

今、高齢化が進む中、こうした若い世代が交流を深め、さらに自然を守る農法が次世代に引き継がれることを期待しています。(水嶋義彦委員)



さあ～ みんなでお米の出荷に～



## 農地の売買や賃借等には許可が必要です！

豊岡市内の農地を耕作目的で売買、贈与、賃借等をする場合、豊岡市農業委員会の農地法第3条に基づく許可が必要です。この許可を受けないでした行為は効力が生じません。

なお、農地の賃借等については、農業経営基盤強化促進法に基づく方法もあります。

詳しくは豊岡市農業委員会事務局にお問い合わせください。

### ○農地法第3条の主な許可基準

次のすべてを満たす必要があります。

- ① 今回の申請農地を含め、所有している農地または借りている農地のすべてを効率的に耕作すること（すべて効率利用要件）
- ② 申請者又は世帯員等が農作業に常時従事すること（農作業常時従事要件）
- ③ 今回の申請農地を含め、耕作する農地の合計面積が下限面積以上であること（下限面積要件※）
- ④ 今回の申請農地の周辺の農地利用に影響を与えないこと（地域との調和要件）
- ⑤ 法人の場合は、農地所有適格法人の要件を満たすこと（農地所有適格法人要件）

※ 下限面積とは、経営面積があまりに小さいと、生産性が低く、農業経営が効率的・安定的に行われぬ恐れがありますので、許可後に経営する農地面積が一定以上にならないと許可はできないとするものです。

豊岡市農業委員会では、管内の下限面積を40a（4,000㎡）と定めています。ただし、空き家に付随した農地を空き家とともに取得する場合で一定の条件を満たすときは、この下限面積は1㎡となります。

### ○農地法第3条許可事務の流れ

豊岡市農業委員会では、毎月1日から5日（休業日の場合は翌日）の間に申請書類の提出を受け付けています。申請書と添付書類の確認、現地調査を経て、毎月25日前後に行う農業委員会の総会で審議のうえ、許可（不許可）を決定します。

#### ☆ 関連情報

- 農地法第4条（自己転用）、第5条（転用を伴う権利移動）申請や農地改良届などの受付期間も毎月1日から5日です。
- 相続で農地の権利を取得したときも「農業委員会への届け出」を忘れずに。



# 作太郎

出石そば

本場の味をご家庭で

出石そば製造販売・そば製粉  
**今森製麺所**  
 製造直売 全国発送  
 〒668-0263  
 兵庫県豊岡市出石町福住329  
 Tel.0796-52-3816  
 Fax.0796-52-6426



- 出石そば（生・半生・乾）
- 祝事・仏事・ご贈答品に
- 各種種類・そば粉販売

純生そば・自家製だし付  
**好評発売中！！**

知らないとい  
損する

# 農業者年金に 加入して 安心して豊かな老後を

- あなたの老後生活への備えは十分ですか？
- 年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
- 老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。

ご存じですか？

農家の方は長寿ですが…

老後はお金の心配をせずに暮らしたい。しかし、予測不可能な経済変動や思わぬケガ・病気もあります。

- ・65歳の農業者年金受給者の平均余命は  
男性22年(87歳)、女性27年(92歳)
- ・日本人の平均余命は  
男性84歳、女性89歳であり  
農業者年金受給者の平均余命の方が  
長くなっています。

こんなにかかる老後生活  
(現金支出で年額約286万円)

高齢農家世帯(世帯主が65歳以上の夫婦2人)の家計費は、現金支出で月額約23~24万円が必要です。  
(総務省家計調査などより)

国民年金の支給額は

一人、月々約6万5千円  
(40年加入の場合)  
夫婦あわせて月額約13万円です。



豊かな老後生活のためには、国民年金だけでは十分とは言えず、老後の生活費は自分で準備する必要があります。

サラリーマンは、厚生年金や共済年金で国民年金(基礎年金)への上乗せがあります。(厚生年金のモデルケースでは月額22万円1千円の年金額)

農業者の皆様も、メリットがたくさんある農業者年金に加入して安心して豊かな老後を迎えましょう。

農業者年金に加入すれば ~農業者年金の支給額の試算~

加入年齢	納付期間	保険料 納付総額	年金額(年額)		平均余命までの受給総額	
			男性	女性	男性	女性
20歳	40年	960万円	76万円	63万円	1,628万円	1,713万円
30歳	30年	720万円	50万円	42万円	1,080万円	1,137万円
40歳	20年	480万円	30万円	25万円	640万円	673万円
50歳	10年	240万円	13万円	11万円	285万円	300万円

※この試算は、通常加入で保険料月額2万円で加入し、65歳までの運用利回りが2.5%、65歳以降の予定利率が0.20%となった場合の試算です。受取総額は65歳での農業者年金加入者の平均余命を考慮し、男性86.5歳、女性92歳まで生存した場合の金額です。  
 ※運用利回りは、加入後の経済変動により上下します。制度発足以降の14年間(H27まで)の運用利回りの平均は、年率2.73%です。  
 ※予定利率は毎年度、農林水産省告示により定められ、平成29年度は0.20%となっています。  
 ※各金額は単位未満を四捨五入により表示しています。

詳しい内容や加入のお申し込みは農業委員会または農業協同組合へ

## 浅倉老人クラブ&子供会の 三世代交流サツマイモ掘り

9月23日に日高町浅倉区で「三世代交流サツマイモ掘り」が行われました。浅倉区では、老人クラブと子供会の交流行事として毎年この時期に開催しており、十数年続いているそうです。

5月に老人クラブのおじいちゃん、おばあちゃんから芋づるのさし方を教えてもらって、子供たちが植え付けました。

イモ掘り当日は、すがすがしい秋晴れの下、老人クラブは元気な人はできるだけ参加し、子供会は、幼稚園児から中学生までの子供たちとその父母が参加。

おじいちゃん、おばあちゃんに掘り方を教わりながら三世代が交流し、有意義なひと時を過ごされました。今後、各地区の遊休農地を活用するなどしてこのような交流が行われれば、その地区の活性化にもつながると思いました。(宮岡正則委員)



やった～大きなサツマイモがとれたよ！

## “八代オクラ” ついに学校給食に登場！

○豊岡市農業委員会で広く普及すべく取り組みを進めている伝統野菜“八代オクラ”。今年6月に「八代オクラ植え付け体験及び現地講習会」が、市立八代小学校の児童を対象に八代オクラの生産者である吉岡さんの圃場で行われ、9月4日には、収穫体験が実施されました。

○その八代オクラが、9月5日・19日・26日に八代オクラのお浸し、八代オクラのスープとして市立日高学校給食センター管内の小中学校の給食に登場。

○児童、生徒たちは美味しそうに食べていました。



## 編集後記



◇農業者の高齢化がますます進んでいきます。「農業だけでは生活できない」現実のもとで遊休農地は年々拡大する一方です。  
◇しかし他方では、農業研修制度への参加や農業大学校への進学を通じて、農業後継者や新たに農業への参画をめざす若者も徐々に現れていることはいずれのことです。  
◇ここ数年にわたり、私たち農業委員会は「こども園」や「小学校」の子どもたちと、「食農教育」を実施してきました。幼児期から土に触れ、身近に農家

のくらしに接しながら、地域に受け継がれてきた「伝統食」、「伝統野菜」を学ぶことで、郷土の豊かな農地と農業を守ろうとする意識の芽生えにつながることを願っています。  
◇農業を魅力的なものとするためには、農業収入の安定化は欠かせません。経営規模の拡大と認定農業者の育成だけにとどまらず、地場農産物の地域ブランド化の推進や「伝統野菜」の発掘と普及、さらにそれらの消費拡大を一体となって進めることが重要ではないでしょうか。  
◇豊かな自然と文化に育まれた国土を未来につなげるためにも農業と農地の荒廃は防がなければなりません。手遅れにならないうちに知恵を絞り力を合わせましょう。

(T・T)



農業委員会だより第38号は私たちが担当しました